

「空港型」5店 1000億円へ

韓国ロッテ免税店、銀座に出店

輸入関税なども免除される「空港型免税店」の開業が繁華街で相次いでいる。韓国ロッテグループのロッテ免税店は3月31日、大型商業施設「東急プラザ銀座」(東京・中央)にロッテ免税店銀座を開いた。高級ブランド品や化粧品が安く買える魅力のアピールし、右肩上がりで増える訪日外国人客を取り込む。今後5年で5店を繁華街に展開し、10年以内に日本での事業規模を1000億円に引き上げる。



東急プラザ銀座にオープンした「ロッテ免税店銀座」(31日、東京・銀座)

海外旅行初心者到的

「中国人の9割は海外の経験がない。そこを取り込むことが重要だ」。ロッテ免税店の張善郁代表理事は31日の記者会見でこう力説した。ロッテ免税店銀座ではまず、中国からの海外旅行初心者ターゲットに据える。

ロッテ免税店は韓国国内で7店、韓国外で4店を運営し、30年以上の実績がある。空港から飛び出し、日本の繁華街で初めて運営する店舗では品ぞろえなどに長年のノウハウを生かした。その一つは日本のブランド「サマサタバサ」のバッグやカシオ計算機のカシオ腕時計、化粧品「雪肌精」など中価格帯の商品

関税や酒税も免除

▼空港型免税店 消費税だけでなく、輸入関税や酒税、たばこ税も免除される免税店。店舗を利用するにはパスポートと海外に出国するための航空券が必要になる。店頭で支払いのみを済ませ、商品は特定空港の国際線で出国手続きを終えてから受け取る。

繁華街で「空港型免税店」の開業が相次ぐ

出店場所	運営主体	特徴
三越銀座店 (東京・中央)	日本空港ビルディング、三越伊勢丹HDなど	1月27日開業。売り場面積3300平方メートル。高級ブランド品や日本の伝統工芸品など約8000品目を取りそろえる
東急プラザ銀座 (東京・中央)	韓国ロッテグループ	3月31日開業。初年度の売り上げ目標は150億円。東京都内では新宿地区での出店も検討
高島屋新宿店 (東京・渋谷)	高島屋、全日空商事、韓国サムスングループ	5月にも免税店を運営する合弁会社を設立。2017年春をめどに開業。大阪市への進出も検討
ビックカメラなんば店 (大阪市)	韓国ロッテグループ、新関西国際空港会社	17年春めどに開業。ビックカメラの2フロア(4400平方メートル)を使い、高級ブランド品や化粧品などを販売する
福岡三越 (福岡市)	福岡空港ビルディング、西日本鉄道など	4月1日開業。売り場面積は1300平方メートル。日本各地の名産品を扱い、博多港での商品引き渡しも検討

ビジネス TODAY

を留意したことだ。売り場の一角には炊飯器や空気清浄機など訪日客に人気の商品も並べた。空港で受け取り、機内に持ち込む手荷物としてかさばるこれらの商品は持ち帰りが可能な消費税のみの免税扱いで販売

している。高額品で固めた空港の免税店との違いを打ち出し、幅広い客層に対応するためだ。開業直後に訪れた台湾の会社員、梁孝慈(32)さんはファンケルの美容飲料9箱と化粧品2本を購入。「空港では時間がなさそう。きょう、ここのでゆっくり考えながら見ている」と話した。政府は30日、2020年の訪日客数の目標を従来の2000万人から4000万人に引き上げた

ばり。訪日客を呼び込む魅力の一つとして、百貨店など大型商業施設では空港型免税店を取り込む動きが相次ぐ。1月27日には三越伊勢丹ホールディングスが沖縄県以外では初めてとなる市の中の空港型免税店を三越銀座店(東京・中央)に開業。4月1日には福岡三越(福岡市)にもオープンする。免税店事業で4200億円を売り上げるロッテ免税店も「銀座、大阪に続き、新宿で

の出店を検討している」(張代表理事)。訪日客の伸びが続くなか、当面は高額品の「安さ」が集客の柱になる。ただ、訪日客に占めるリピーターの割合が高まれば、その魅力は薄れる。訪日客の買い物ではすでに売れ筋が高額のブランド品から単価の安い化粧品など消耗品に移りつつあると、この1年で訪日客1人あたりの購入金額は15%も落ち込んだ。日本の消費者の関心が「モノ」から「コト」に移っていったように訪日客のニーズも変わる。すでに着物の着付けなど日本文化の「体験」に関心を示す訪日客は多い。現状では大都市が中心の訪日客の消費も「訪日の回数が増えれば、地方に向かう」(三越伊勢丹ホールディングスの大西洋社長)。訪日客の消費を喚起する新たな仕掛けをどうそろえていくか。空港型免税店の集客効果を細かな分析が求められる。(豊田健一郎)